

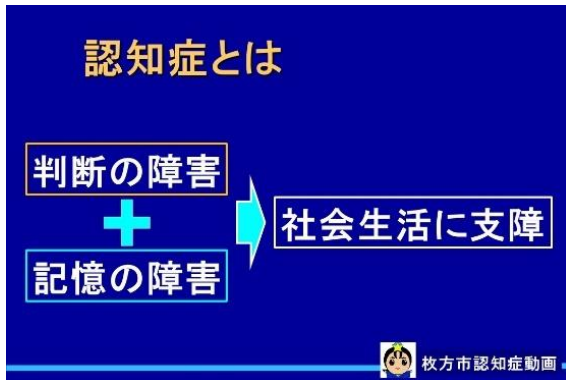
認知症を心配しているあなたへ 「認知症が心配なもの忘れ」

星ヶ丘医療センターもの忘れ外来 医師 森 敏

どなたでも 40～50 歳になると、「人の名前が出てこない」「物の名前が出てこない」などもの忘れが始まります。これらのもの忘れには、「放っておいてもよい“良性のもの忘れ”」と「認知症の初期症状が疑われる“悪性のもの忘れ”」があります。

この動画では、両者の違いについてわかりやすく解説します。もしかして認知症では？と心配されている方は、是非ともご覧になって下さい。

①



【認知症とは】

認知症とは、「記憶の障害に判断の障害が加わり、仕事や日常生活に支障が出てきた状態」をいいます。

この記憶の障害と判断の障害は同時には起こらず、まず悪性のもので忘れが現れ、その後判断の障害が加わります。

そこで、「認知症の前駆症状である悪性のもので忘れ」を見分けることが重要になります。

②

“良性のもの忘れ” vs “悪性のもので忘れ”

良性のもので忘れ	悪性のもので忘れ
体験の一部を忘れる	全体を忘れる
進行しない	進行する
自覚している	自覚していない

枚方市認知症動画

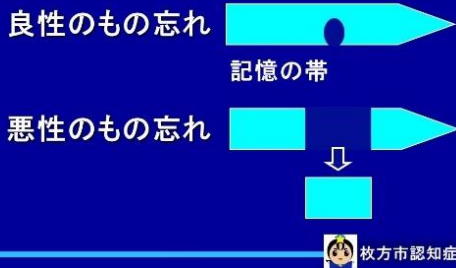
【良性のもので忘れと悪性のもので忘れを見分けるポイント】

認知症の前駆症状である悪性のもので忘れの特徴を一言でいいますと、「すっかり忘れている」ことです。

また、「進行する」「忘れていることを自覚できない」ことも良性のもので忘れとの鑑別ポイントです。

③

“良性のもの忘れ” vs “悪性のもの忘れ”



【良性のもの忘れと

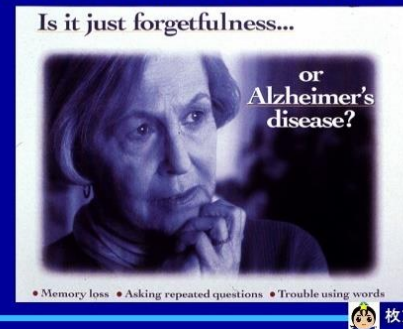
悪性のもの忘れのイメージ】

人は、物心がついた頃から記憶の帯が連綿と続いており、これこそが人生です。

しかし、悪性のもの忘れが生じると、その一部がすっぽりと抜け落ちてしまいます。

④

悪性のもの忘れ:「同じことを何度も尋ねる」



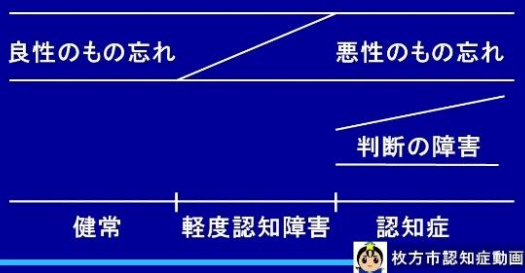
【単なるもの忘れか

アルツハイマー病か】

悪性のもの忘れは、「同じことを何度も尋ねる」ことで気づかれます。これは直前に尋ねたことが記憶に残らないためです。

⑤

認知症への道のり



【認知症への道のり】

40～50 歳になると人の名前が出て来ないなど良性のもの忘れが始まり、その後悪性のもの忘れが混じってきます。この段階はまだ判断が適正に行えるので認知症とはいええず、軽度認知障害といえます。

さらに、時間の経過と共に悪性のも忘れが著しくなり、判断の障害が加わると日常生活に支障が出てきます。この段階を認知症と呼びます。